

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	機械学習による病理組織画像解析
	研究目的	次世代シーケンサー（Next Generation Sequencing：以下 NGS）を用いた遺伝子パネル検査に基づくがんゲノム医療が本格的に導入されつつあるが、病理医による組織検体の腫瘍細胞含有の有無や腫瘍細胞含有割合（以下 TC）の確認が面積による判定をしがちであり、NGS データ解析に影響を与える可能性がある。そこで、AI による組織検体の腫瘍細胞検出の可否、AI による組織検体の腫瘍細胞含有割合の判定の可否、AI による腫瘍細胞の検出および腫瘍細胞含有率の自動算出が有効であるかについて検証を行い、改善策を見出すことを目的とする。
	研究対象者	2018 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までの間に、当センターで、がんの生検や手術を受け、病理組織診断が施行された患者さん。
	研究期間	西暦 2021 年 1 月 25 日～西暦 2023 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> デジタル化した病理組織画像 <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	横瀬智之
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	北海道大学病院 先端診断技術開発センター 研究責任者：畑中 佳奈子